

### 四国お遍路の予定

今秋の四国参拝の日程が決まりました。

十月二十九日～三十一日です。九月中旬以降で料金や行程が案内できるかと存じますので、ご連絡ください。

今回は高知県を中心に室戸岬の二十四番札所から足摺岬の先の愛媛の明石寺までを参ります。

今回からの参加も可能です。ご検討ください。

(ご希望者には来春までに一番から二三番まで追加して回る予定です。)

今年四月お遍路の宿の安楽寺も鳴門も希望通りできなかったため来春の四国巡拝の愛媛は三月彼岸以降に変更予定です。

### 真言宗の基礎知識(その五十一)

#### (弘法大師のご入定の後 その四)

天台宗の後継者たちは密教の勉強のために中国を目指します。特に有名な僧侶に円仁と円珍の二人がいます。このうち円珍は弘法大師の甥にあたる人です。

円仁は八三八年に中国にわたり八四七年に帰国し、円珍は八五三年に中国にわたり、八五八年に帰国しています。実はお大師さまが八〇六年に帰国したのは二十年以上の間、帰国出来なかった時期に入りますが、お二人は幸運に恵まれていたようです。この二人の力をもって天台宗は勢力を取り戻します。

一方、真言宗の各寺院は、東寺や高野山・高尾山寺・勧修寺・醍醐寺・大覚寺などに分散し、それぞれが有名な貴族の援助を得て独自の道を進むことになりました。

その中で、隆盛になっていったのは、上皇の寛平法王の存在でした。天皇のお名前は宇多天皇ですが、嵯峨の仁和寺を建立し、ここで東寺の長者の益信(やくしん)について得度されました。そこにご自分の住まい「御室(おむろ)」を設け、ここで政務を監督しました。今も真言宗の流儀で広沢流(ひろさわりゅう)という法流が続いているのですが、この名前はこの地名に由来をします。

一方、同じ時期に醍醐寺を建立した聖宝(しょうぼう)が次第に勢力を増して行きます。

ご奉仕作業がありました。去る四月二十一日(日曜日)の午前九時から十一時まで、約二時間奉仕活動がありました。当日は小雨が降ったりやんだりのあいにくの天候でしたが、無事に終了できました。ありがとうございました。



# 上之坊だより



令和6年5月10日 上之坊広前 地鎮祭 執行

令和6年6月1日  
第102号  
福山市大門町大門325  
電話 (084) 941-1031  
fax (084) 941-1168

## 弘法大師聖語抄

いっしん こくう  
一心の虚空はもとよりこのかた

じょうじゅう  
常住にして不損不滅なり

お大師さまは「どんなに心が煩惱に覆われていても、夢や希望を求め魂は常に同じところで、動くことなく、壊れたり無くならず存在し続ける」と説かれています。

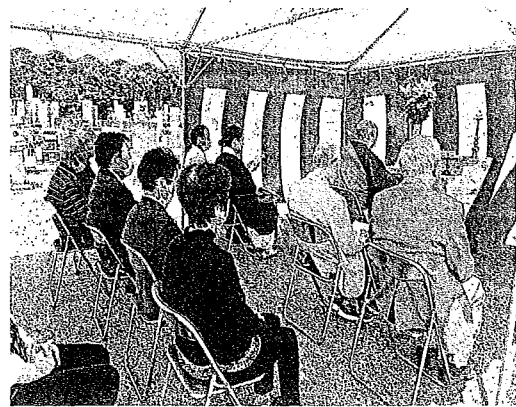
眠っている時に見る夢ではなく、普段の生活で「こうなりたい」と思っても実現が難しいような希望を「はかない夢」としてあきらめてしまいがちですが、そちらを向いていけばたとえ全部がかなわなくても、「何か」を得ることは多くあります。

「夢は見るものではなく、かなえるもの」誰かが言った名言ですが、自分を否定せずに自分が本来持っている生きる力を信じて、少しでも夢の実現を目指して欲しいと思います。

「夢が逃げてゆく」と、よく言いますが、夢のほうから私から逃げていくのではなく、自分のほうが夢から逃げるように動いているのです。「さとり」も同じで、前向きでさえいけば自然にそちらの世界に近づいているのかもしれない。

# 上之坊寺前広場 整地開始

上之坊所有の寺前の土地を、令和八年の住職交代に合わせて整備をし、参道や駐車場・広場での護摩壇の祭場などに使用できる場所にすべく整備をするこゝととなりました。三年近い時間をかけて、やっと一つの結論に到達いたしました。これから約二年の歳月をかけて、整備を行います。この五月十日、関係者が集まって土公供（地鎮祭）が行われ、工事の無事成満を祈念しました。



土公供式典中

工事の詳細については、まだ未定の部分もありますが、内参道の石畳での再整備費に約八百万円を見込んでおり、このほか塀の前の駐車場の舗装費用や護摩壇周辺の整備、さらには山の間点に点在する観音石仏をまとめる費用などと晋山式の費用までで約二千五百万円が必要になると考えます。

物価も高騰し、また出費が多い昨今ではありますが、お寺の有効活用と、お寺周辺の風景が一層立派になるように出来ればと考えております。



高橋総代による鍬入

なお、今年年末までには整地工事は終えて、今年十月二十八日に護摩祈願をここで実施するよう計画中です。

また、今の駐車場は舗装する予定ですが、行事の時のために塀の中にも駐車スペースを設け、観音さまのお参りもできるようにしたいと考えています。



小川総代の乾杯発声

総代・世話方会開催  
去る四月二十一日の奉仕作業の後、総代・世話方会を開催いたしました。

当日は総代・世話方の皆様にはご奉仕作業に加わっていただいた後でしたので、お疲れの方もいらつしやいましたが、みなさままでご議論をしていただきまして。また、ご奉仕作業にもご参加いただいた方も残られてお話を聞いていただきました。

この結果、今年六月始めより再来年の六月末日までの期間で檀信徒の皆様にご寄付を願ひ、寺前整備と晋山式の費用を捻出する事。不足分はお寺の通常会計より充当する事。

大体の目安として、五万円程度のご寄付を願うが、金額よりも口数を重視する。着工式を五月十日とし、五月末から随時工事を始める事が決定しました。

## お施餓鬼法要のご案内

おせがき（ロウソク）法要を七月十三日（土）夕方六時三十分より行います。

この法要は灯明・食物やお水をお供えして、多くの諸精霊の成仏を祈る法要で別名を「施食会」とも言われています。

地獄や餓鬼道に墜ち、飢えや渇きの苦しめで成仏できない精霊に水や食物を供えて成仏できるように願ひ、また最近亡くなられて間もない仏様には一層の菩提の安らかなる事を祈る法要です。

お盆には各地でいろいろな供養の行事が催されますが、このおせがき法要がその一番最初の姿であり、亡くなった方への供養として、大変長い歴史を持つ由緒ある儀式であります。

今も多くのお寺で続けられているおせがき供養ですが、上之坊では亡くなられて三年くらいまでの仏様を中心に、有縁無縁（うゑんむゑん）の三界万霊への供養をいたします。午後六時半に夕勤行を始めて夕暮れを待ち、誂経をして、経木塔婆（きようぎとうば）に水をかけて回向をし、最後にロウソクに点灯をしてまいります。

新仏（しんぼとけ）様などで特別に成仏をお祈りいただく場合は、これに二尺半の施餓鬼塔婆をお墓にたてていただくよう用意いたします。できましたら前日までに電話でお知らせください。

このときの志納金は五千円です。（記念品とお菓子付）

また一般参拝の方は経木塔婆とロウソクをお渡ししての供養となります。一家族二千円をお願いいたします。（お菓子付）

この一般受付は当日八日夕方六時十五分より開始いたします。この法要終了後、今年のお盆勤めの日時のご希望を受けます。お盆に近い八月中旬にご希望の方はお残りいただき、ご相談をしたいと思います。

## 今年のお盆づとめ（棚経）予定について

- 七月十四〜十六日 新曆盆御希望者
- 七月十七〜三十一日 日時指定希望者
- 八月 一日 東谷・日之出ヶ丘・一部伊勢ヶ丘
- 八月 二日 中谷・駅前・西谷・幕山台および伊勢ヶ丘の希望者
- 八月 三日 横道・笠岡市の一部
- 八月 四日 元幕山・元大谷・坪生
- 八月 五日 石樋・引野古地
- 八月 六日 大門町（JRより南）
- 八月 七日 曙・新涯・川口・野上・手城・引野南
- 八月 八日 引野北・東深津・蔵王・春日・能島の各町
- 八月 九日 福山（奈良津を含む中央部・西部）・尾道・三原市
- 八月 十日 青葉台・幕山台・大谷台・伊勢ヶ丘等住宅地域
- 八月 十一日 福山中央部・西深津・笠岡市・倉敷市
- 八月 十二日 東陽台・千田・神辺・芦田・加茂など福山北部
- 八月 十三日 午前初盆 午後福山中央 夜初盆
- 八月 十四日 午前初盆 午後・夜福山東部住宅地
- 八月 十五日 午前初盆 午後上之坊にて回向希望者
- 八月 十六日 以降 日時の指定希望者

お参りする時間は朝八時から十一時半までと十三時半から二十時までです。

休日希望や時間指定をされる方はお施餓鬼法要終了からお受けいたしますのでお申し込みください。また病氣などで今年のお参りが難しい方もご連絡をお願いいたします。